

東日本大震災
あの日を未来につなぐ、宮城のいま。

2020.1.11

Vol.
45
January, 2020

ナウイズ
毎月11日発行

NOW IS.

May J.

in

気
仙
沼



2011年3月11日に
一瞬で戻る場所でした。

NOW IS. 対談

Talk Session

in
気仙沼
KESENNUMA

当時の姿を残す意味。 発信することの 大切さを考える。

2011年の震災直後から、慰問やチャリティライブなどで度々気仙沼を訪れているMay J.さん。今回は、May J.さんが「これまであまり見ることがなかった」という気仙沼の側面を見て回ります。

訪れたのは、気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館。館内を見て回り、震災直後からがれき処理を担当していた、佐藤克美館長と話をしました。

**震災から8年。
来場者が見る当時の姿。**

佐藤克美館長（以下佐藤）「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館では、2011年3月11日のありのままの姿を見せることを目的に2019年3月10日にオープンしました。年間7万5000人を目標にしていたのですが、2019年11月までに7万7000人の方に全国から来ていただいています。当時気仙沼に居なかった方はもちろん、支援やボランティアで来ていた方が来館することもあります。震災当時小さかった子どもたちが見に来てくれるのもうれしいです」

May J.
May J.

PROFILE

1988年生まれ、神奈川県出身。幼いころからピアノやダンス、オペラなどを学び、2006年にメジャーデビュー。震災直後からチャリティライブなどの慰問や支援を行い、気仙沼クリスマスイルミネーションプロジェクト ONE-LINE に8年連続で参加している。

めい
じえい

さとう
かつみ

すね。
May J.さん（以下May J.）「震災からもうすぐ9年ですもんね。2011年に生まれた子でも9歳になる…。私が震災のあと初めて気仙沼に来たのは、8月でした。内陸に大きな漁船（第18共徳丸）が打ち上げられていたり、衝撃的な光景だったのを今でも覚えてます」

光景から当時ここまで復興するとは思いませんでした。
May J.「ここでは、そんな時の状況、そのままの姿を残しているんですもんね。気仙沼向洋高校旧校舎を見学しながら、驚くことばかりで、言葉が出てこなくなっていました。海のそばの松林の松ぼっくりが教室の中にあたり、校舎にぶつかった工場の破片が残っていたり…。もうすぐ9年たつ今、当時を語る言葉も記憶も薄れてきています。伝え方や捉え方も変わってしまった。そんななか、こういう場所があると一瞬で2011年に戻ってしまう。見学していて、ぜひ多くの方に見に来てほしいと思いました」

佐藤「がれき撤去の仕事を終わった時、ここで立ち止まるわけにはいかないと考えたんです。ここを残し、多くの方に見てもらうことで、災害対応や防災・減災の必要性を感じてほしいと思います。ありのままの姿を残すことで、教訓を感じてほしい。安全な場所に避難する必要を知ってほしいと。気仙沼向洋高校で学んでいた生徒は、地

震の後すぐに高台に避難して無事でした。そういう場所だからこそ、残したいということで、地元からの要望もあり意見がまとまったんです」

May J.「佐藤館長ご自身も辛い思いがあるなかで、ここで語っていただけるというのも、すごいことだと思いました。震災を乗り越えて伝えていく姿が素晴らしい」

佐藤「ありがとうございます。熊本地震が起きた時、私自身も現地に行つてがれき処理の方法について支援しました。という

のも、東日本大震災直後に、阪神・淡路大震災を経験した尼崎市の方が手伝いに来てくれたからなんです。支援はつながっていきます。ここを残し、伝えることで、災害への備えや支援について、考え直すきっかけが生まれてほしいと考えています」

Katsumi Sato
佐藤克美

PROFILE

気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館館長。1968年生まれ、気仙沼市出身。気仙沼市役所で、震災直後からがれきの撤去・処理に取り組んだ後、東日本大震災遺構・伝承館に立ち上げから関わる。市のバスケットボール振興にも熱心。



ありのままの姿を見て
防災や災害について考えてほしい。



活躍する応援職員

SUPPORT POWER



道路整備で便利で快適な生活を送ってもらいたい

「これまで職務経験の長い職員が派遣されていたので、自分が役に立

てるのかという不安はありません。でも、少しでも復興の力になればいいと思います」と話す鈴木さんは、入庁5年目の2019年4月、鹿児島霧島市から気仙沼市へ派遣職員として、やってきました。

気仙沼市では建設部土木課道路整備係に技師として所属し、道路改良工事に関する業務を担当。道路の整備計画に対して、設計・積算・発注・監督・維持管理などの業務を行っています。工事が終わり、車の流れがスムーズに動いているのを見ると、やりがいを感じるという鈴木さん。現在は主に、羽田川上線という、つじの名所として有名な徳仙丈山への道路改良工事を担当しています。

「羽田川上線は、砂利道かつ急勾配で、つづら折れの道路。つじが見頃の時期は、観光バス同士がすれ違いが難しく、渋滞が起きてしまうので、改良工事をしています。つじが見頃の時期、荒天や雪が積もる1月〜3月は工事ができません。天候ばかりは自分ではどうにもできないので、スケジュール調整に苦勞しています」。



徳仙丈山のつじ。「山が真っ赤になって、見応えがあります。鹿児島島のつじよりも、花が大きいんです」と鈴木さん。

気仙沼市に来て鈴木さんが感じたことは「危機管理意識の高さ」だと言います。「職員は常に情報のアンテナを張っていますし、住民の方の避難も早いです。鹿児島では台風による水害が多いので、情報感度を高めたいのですが、気仙沼市に来てみて、まだまだ意識が低いと感じました。見習いたいです」。

「来年度は震災から10年の節目の年。派遣がいつまで続くかわかりませんが、今できることに全力で取り組み、戻る時が来たら、きちんと引き継ぐこと。そして霧島市に戻った時は、気仙沼市で学んだ知識を役立てたいです」と話してくれました。

気仙沼市 建設部 土木課道路整備係 技師
鈴木 智也 さん
鹿児島県霧島市より 気仙沼市に派遣

AREA information

気仙沼メカジキ

気仙沼市は、多種多様な魚種が豊富に水揚げされる日本有数の港まちです。冬の旬は、日本一の水揚げを誇るメカジキ。地元では昔から身近な魚であるメカジキのおいしさや食文化を伝えるため、メカすき(すき焼き)やメカしゃぶ、メカカレーなど、様々なメニューで提供されています。ぜひ、気仙沼市で脂ののったおいしいメカジキをご賞味ください。

<http://www.mekajiki.jp/>



水揚げされたメカジキ



メカしゃぶ



復興や防災にまつわるニュースをお伝えします

残る当時の風景と、前進する人々。どちらも「今」の気仙沼。

素直に感じたことを、自分の言葉で発信したい。

「震災の年の8月に初めて気仙沼に来て、気仙沼小学校の校庭で行われた夏祭りやチャリティライブをやったんです。がれきもまだたくさん残っていて、避難所で暮らす方々も多い状況で。このような場所で歌手とし

てできることがあるのかな、と悩みましたが、歌い終わったらあと、一人のおばあさんが来て、自分は津波で家族を失ってしまっただけで、今日あなたの歌を聞いて、ちょっと元気になったよ、って言ってくださったんです。それを聞いて、私、これからの歌っていいんだな、思えたんです。東日本大震災遺

構・伝承館で震災当時の様子をみて、あの時の気持ちを思い出しました。」

そう話すマヤさん。津波の傷跡をそのまま残している気仙沼向洋高校の旧校舎を見学している途中も、何度も息をのみ、言葉を失う様子が見られました。「いま、ここまでリアルな状況を目の当たりにできる場所は

他にないですよ。時間が止まっているみたい。校舎の3階に押し流された車とか。ここに立つと、当時の状況を想像できる。そういう力が、防災につながるのかもしれないですね。」

震災直後から毎年、気仙沼を訪れているマヤさんにとって、もう一つ印象に残っている光景があります。真っ暗な被災地の夜、明るくにぎわっていた「復興屋台村気仙沼横丁」です。次に訪れたのは、復興屋台村の想いを引き継ぎ、2019年7月にオープンした「みしおね横丁」。

「復興屋台村は5年半続き、そこでもいろいろなコミュニティがたくさん生まれました。そういう賑やかな場がなくなってしまっただけで、新しい仲間とともに始めたのがこの横丁です」と話すのは、みしおね横丁の仕掛け人であり、PRISMのマスターでもある小野寺雄志

さん。「復興屋台村では、毎月いろいろなイベントをしていたので、こっちでも続けていきたい。以前は外から気仙沼に来た人の拠点のような場所でしたが、今は地元の人の方が多くいます。常連さんと観光客の人が一緒にここで飲んでたりね。船を降りたかつお漁師さんが、かつおを丸ごと持って来たりするんですよ。楽しそう！と声を上げる

Visit 気仙沼 KESENNUMA



PRISMマスターの小野寺雄志さんと、みしおね横丁にて。



破壊された窓はそのまま。荒れた室内を間近で見ることができます。



くつろげるリビングのような雰囲気のPRISM。

ここに注目! NOW IS. EYE'S



みしおね横丁は、トレーラーハウスを利用した屋台村。BARやインドネシア料理、沖縄料理など気仙沼に住む人が営む店が並びます。注目は、お風呂！昔からあった銭湯を復活させ、漁師さんが早朝に一風呂浴びられる場をつくりました。



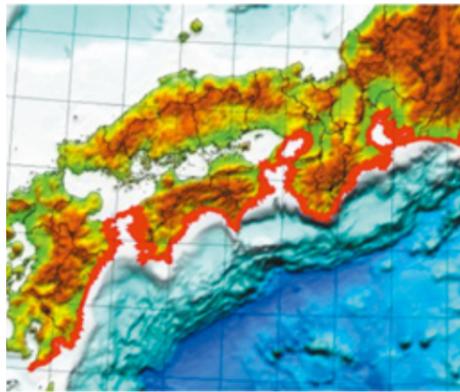
気仙沼市街地のイルミネーション点灯式で行われたMay J.さんのライブ。

May J.さん。「漁師さん、お会いしてみたいなあ。ここは、気仙沼の今を知れる場所なんですね。」

「私が知らなかった気仙沼を見ることができました」と一日を振り返るMay J.さん。「忘れちゃいけない部分を知ることができる場所と、どんどん楽しくなるみしおね横丁、気仙沼に生きている人のいろんな側面を見ることができました。これからも呼んでいただける限り毎年来ます！私が感じたことを、自分の言葉で伝えていくこと。それが私の使命かなと思っていますので。」

check! 01

地震の情報をキャッチし、津波の浸水深や被害を予測。



赤くマークされている部分が、予測が可能になった領域。

どの場所が何m浸水するか。最先端の予測システム。

check! 02

南海トラフ地震を想定し実用化。30分以内に被害予測。

このシステムによって、「どの場所が、どれくらいの津波により浸水するか」という精度の高い情報を短時間で得られるようになりました。「10分以内に情報収集と津波の発生予測を完了させ、10分以内に浸水・被害予測を行い、その情報を10m毎の単位で地図に落とし発信する」という目標を達成しました。これまで数日かかった津波被害の把握を、地震発生から30分以内に行えるようになりました」と話すのは、開発者のひとり、越村俊一教授です。迅速に被害状況が把握できれば、どこにどれくらい救援部隊を派遣すればいいか、迅速な検討と対応が可能になります。情報が少ないために救助の手が届かない、という状況を改善することができるのです。システムはすでに実用化されています。「2017年11月からは内閣府の津波浸水被害推計システムに採用され、運用が開始されました。南海トラフ地震を想定し、365日いつでも対応できる運用を行っています」。今後は、内閣府



リアルタイム津波浸水被害予測システムを活用した避難訓練の様子。

東日本大震災で津波が発生した後、被災地救援などの様々な対応が必要とされたのは、「どの場所にどれくらいの津波が浸水して被害が生じているのか」という情報です。被災の全容が分かるまでに長い時間を要し、的確な災害対応が困難でした。そんな状況を打開するシステムが生まれています。それが「リアルタイム津波浸水被害予測システム」です。現在、地震が起きた後にテレビやラ

ジオで流れる「津波予測」は、地形や震源の位置などをあらかじめ想定して得られた津波高予測値のデータベースに基づく予報であり、津波の浸水（内陸のどこまで津波が浸水するか）を予測するものではありません。一方このシステムでは、震源地での断層の動きなど、その時発生した地震の情報を自動で取得して、津波の浸水深や被害を予測することができます。

NOW IS. 防災

BOSAI FRONT LINE

PROFILE

こしむら しゅんいち
越村 俊一 教授



東北大学災害科学国際研究所災害リスク研究部門教授、東北大学大学院工学研究科博士後期課程修了。東京大学地震研究所やアメリカ海洋大気局、財団法人阪神淡路大震災記念協会「人と防災未来センター」などで津波の研究に従事。2012年に現職。2018年株式会社RTI-castを設立、CTOとして技術開発の総括と普及に取り組む。

だけでなく、航空会社やインフラ企業などにもシステムを活用してもらえよう働きかけていきたいと越村教授。「人の命を迅速に救うという、価値のあるシステムです。今後は南海トラフだけでなく、日本全国・世界と、適用エリアを増やすとともに、予測の信頼性や迅速性をさらに高めていきたいと思っています」。

Vol.9

01 震災復興ポスターを配布しています！

宮城県の復興の「いま」をお伝えするとともに、復興の過程で得られた新たな「価値・教訓」を全国に発信するため、今なお復興に向けて取り組む方々の決意や想いを表したポスターを4種類作成しました。震災の記憶の風化防止や、防災・減災を目的とした掲出を行っていただける方には無料でご提供いたします。



02 宮城の復興状況をまとめた「宮城県震災復興パネル」の貸出しを行っています！

震災復興ポスターの完成に伴い、宮城の復興状況をまとめた「宮城県震災復興パネル」をリニューアルしました！防災等のイベントのほか、大勢の方にご覧いただける場所で展示いただける場合には無料で貸し出します（送料は利用者負担）。全10枚のうち、枚数を限定した貸出しも受け付けていますので、是非ご検討ください。

●仕様等
サイズ:A1、枚数:10枚、
貸出料:無料、送料:利用者負担

ポスターとパネルの詳細は
みやぎ復興情報ポータルサイト で検索

●県震災復興推進課 ☎022-211-2408



MEDIA INFORMATION



みやぎ復興情報ポータルサイトは
こちらから！



https://www.fukkomiyaagi.jp

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」をリニューアルしました！復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取り組みなどを発信します。

最新情報を
ブログで！

ブログピックアップ

いわたかれん 復興フォト



岩田華怜

これまでの被災地訪問は90回を超える岩田さん。「写真」に想いを込めて、被災地の状況を発信しています。今回訪れたのは「名取市」。「かわまちでらす閉上」や昨年10月に蔵開きをした「佐々木酒造店」などをご紹介します。

宮城発！ 元気と食の 最新情報



一般社団法人
IkiZen

震災復興に軸足を置き、被災地企業の販路開拓や商品開発、広報活動支援などを行っています。

宮城県を代表する三陸の味覚「ホヤ」。カラッと揚げることで旨みを引き立つ「ホヤ天ぶら」、「ホヤ唐揚げ」は人気急上昇の逸品です。宮城県産ホヤを年中楽しむ食文化として、宮城県の新名物「ホヤ天&ホヤ唐」を発信するフェアをご紹介します。

「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS.復興レポート」をご覧ください。

●いまを発信！復興みやぎ



SNS「いまを発信!復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地の「いま」を発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしております。ハッシュタグ「#fukkomiyaagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。

●NOW IS.メールマガジン

NOW IS.の発行日(土日・祝日のときは翌平日)にメールでお知らせします。

NOW IS.メールマガジン で検索して登録!

取材
こぼれ話
Voice
from
STAFF

みしおね横丁

今回のロケでの昼食は、みしおね横丁の「PRISM」でいただきました。複雑なスパイスの味を楽しめるカレーは、みんなあつという間に完食。今度は、夜にのんびりとカクテルを楽しみたいと思う編集スタッフでした。また、みしおね横丁にはイスラム教徒の礼拝堂、モスクがあります。気仙沼では、遠洋マグロ漁船の船員や水産加工場で、インドネシア人が多く住んでいるそう。銭湯は、朝が早い漁師さんのために午前6時から営業しています。



みやぎのタカラ

Treasures of Miyagi

宮城県が得た震災の教訓や復興の道筋は、未来に役立つ宝に育ちつつあります。
この地で生きる人々の想いととも、世界に発信していきます。



FILE
No. 9

気仙沼

気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館

気仙沼市

目に見える証として
記憶と教訓を伝える

気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館は、津波で4階まで浸水した気仙沼向洋高校の旧校舎を震災当時のまま保存・公開している施設です。

伝承館では、震災直後から数カ月間の様子をパネルや映像で詳細に展示。当時のリアルなまじりの様子を感じることが出来ます。気仙沼向洋高校旧校舎は、校舎の中や屋上、中庭などを実際に歩いて見学できます。3階まで流れ着いた乗用車、押し寄せた津波の様子、冷凍工場が津波によって流され、校舎にぶつかった痕跡などが、ほとんど手を加えず、保存されています。

語り部によるガイドも実施しています(事前に予約が必要)。それぞれの語り部の記憶や想いを聞きながら、生々しい津波の傷跡を見て回ると、より当時の様子が伝わってきます。ホールに貼りだしてある、見学者からの手書きのコメントも見どころのひとつ。一人ひとりの想いが心に響きます。



NOW IS. vol. 45

発行:2020年1月11日 宮城県震災復興本部(事務局:震災復興推進課)
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号
Tel:022-211-2408 Fax:022-211-2493

『復興情報発信プロジェクト NOW IS.』は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

 宮城県
Miyagi Prefectural Government